

## 常態化する米軍パラシュート降下訓練に厳重抗議する意見書

米軍は嘉手納基地において、令和6年8月23日午後5時過ぎから同9時頃までの間に8回に分け、計58人もの兵士がパラシュート降下訓練を強行した。報道によると、半球状のパラシュートを使用し低高度から21人が、弧状のパラシュートを使用し高高度から37人が降下し、訓練時に付けるライトが基地内に落下する様子も確認されたという。

それから半月も経たない9月3日、沖縄県や同基地周辺自治体及び議会が繰り返し中止を求めるなか13人の兵士が降下した。

本町は住民居住地が嘉手納基地に極めて近接しており、操縦ミスや突風に煽られ基地外へ着陸及び部品等が落下すれば重大な事故に繋がり兼ねず、如何なる理由があれ嘉手納基地での同訓練は断じて容認できない。

そもそも同訓練は原則、伊江島補助飛行場での実施が日米特別行動委員会（SACO）最終報告で合意されている。日本政府は「不定期」、「小規模」、「緊急の必要性」、「滑走路の不具合の継続」の4要素が例外の理由に当たるとの認識を示し追認しているが、8月の降下訓練に参加した兵士の数は58人と決して小規模とはいえず、訓練内容も拡大している。昨年12月から今回を含め計8回実施されており、もはや「常態化」していると断じざるを得ず、なし崩し的な運用により更なる基地負担増が危惧されることから、強い憤りを禁じ得ない。

嘉手納基地においては常駐機・外来機が入り混じり、早朝から轟音を立てながら断続的に離発着、飛行訓練が繰り返され、パパーループ地区では昼夜を問わずエンジン調整や訓練が行われるなど、周辺住民は長年にわたり騒音被害など過重な負担を強いられ続けている状況下、嘉手納基地での同訓練の常態化は日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された「嘉手納基地における負担軽減」に逆行しており、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達しつつある。

日米両政府に対して例外的措置の撤廃及び伊江島補助飛行場滑走路改修が完了するまでの間、県外・国外での訓練実施を強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から、例外的措置を盾に常態化する嘉手納基地での米軍パラシュート降下訓練に対し厳重に抗議するとともに、下記事項を速やかに実現するよう強く要求する。

### 記

- 1 嘉手納基地における米軍パラシュート降下訓練を全面禁止すること。
- 2 同訓練は伊江島補助飛行場滑走路改修が完了するまでの間、県外・国外で実施すること。
- 3 平成19年に日米合同委員会で合意された「例外的措置」を撤廃すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和6年9月6日  
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 内閣官房長官（沖縄基地負担軽減担当）  
沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使（沖縄担当） 沖縄防衛局長  
沖縄県知事

## 常態化する米軍パラシュート降下訓練に厳重抗議する決議

米軍は嘉手納基地において、令和6年8月23日午後5時過ぎから同9時頃までの間に8回に分け、計58人もの兵士がパラシュート降下訓練を強行した。報道によると、半球状のパラシュートを使用し低高度から21人が、弧状のパラシュートを使用し高高度から37人が降下し、訓練時に付けるライトが基地内に落下する様子も確認されたという。

それから半月も経たない9月3日、沖縄県や同基地周辺自治体及び議会が繰り返し中止を求めるなか13人の兵士が降下した。

本町は住民居住地が嘉手納基地に極めて近接しており、操縦ミスや突風に煽られ基地外へ着陸及び部品等が落下すれば重大な事故に繋がり兼ねず、如何なる理由があれ嘉手納基地での同訓練は断じて容認できない。

そもそも同訓練は原則、伊江島補助飛行場での実施が日米特別行動委員会（SACO）最終報告で合意されている。日本政府は「不定期」、「小規模」、「緊急の必要性」、「滑走路の不具合の継続」の4要素が例外の理由に当たるとの認識を示し追認しているが、8月の降下訓練に参加した兵士の数は58人と決して小規模とはいえず、訓練内容も拡大している。昨年12月から今回を含め計8回実施されており、もはや「常態化」していると断じざるを得ず、なし崩し的な運用により更なる基地負担増が危惧されることから、強い憤りを禁じ得ない。

嘉手納基地においては常駐機・外来機が入り混じり、早朝から轟音を立てながら断続的に離発着、飛行訓練が繰り返され、パパーループ地区では昼夜を問わずエンジン調整や訓練が行われるなど、周辺住民は長年にわたり騒音被害など過重な負担を強いられ続けている状況下、嘉手納基地での同訓練の常態化は日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された「嘉手納基地における負担軽減」に逆行しており、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達しつつある。

日米両政府に対して例外的措置の撤廃及び伊江島補助飛行場滑走路改修が完了するまでの間、県外・国外での訓練実施を強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から、例外的措置を盾に常態化する嘉手納基地での米軍パラシュート降下訓練に対し厳重に抗議するとともに、下記事項を速やかに実現するよう強く要求する。

### 記

- 1 嘉手納基地における米軍パラシュート降下訓練を全面禁止すること。
- 2 同訓練は伊江島補助飛行場滑走路改修が完了するまでの間、県外・国外で実施すること。
- 3 平成19年に日米合同委員会で合意された「例外的措置」を撤廃すること。

以上、決議する。

令和6年9月6日  
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

駐日米国大使 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官  
在沖米国総領事 嘉手納基地第18航空団司令官 沖縄県議会議長